



活動報告



支援・助成事業の紹介

神戸ルミナリエ協賛事業、神戸デ  
イライトファウンテンに協賛しまし  
た。

日時…1月19日(金)〜28日(日)

会場／東遊園地南側園地・花時計広場

神戸ならではの美味しい食事と、ジャ  
ズとフルートを中心にステージプログ  
ラムが実施されました。



松下麻理さん講演(交流会)

神戸文化マザーポートクラブ主催の  
「文化・芸術交流会」が12月14日、神戸  
ポートピアホテルで、会員など約70人が  
出席して開かれました。神戸フィルムオ  
フィス代表、アーティスト・イン・レジ  
ダンス神戸支配人の松下麻理さんが「芸  
術・文化を活かした都市プロモーション」  
と題して講演。映像制作の誘致による神  
戸のブランディング向上の現状を語る  
とともに、芸術・文化の分野から今後の  
可能性を語ってくださいました。講演後  
にはミニジャズコンサートも。関西の第  
一線で活躍中の新井雅代(Vo) + 田中ヒ  
ロシトリオによる演奏で、ジャズ発祥1  
00年を締めくくっていただきました。



松下さんの講演要旨は次の通りです。

◇ ◇  
奈良県出身で、就職で神戸に来ました。  
当時、神戸は私にとって時代の最先端を

行くキラキラな都市でした。3つのホテ  
ルで働いた後、神戸市の広報専門官とし  
て5年、現在は神戸観光局で広報とフィ  
ルムオフィスの仕事をしています。

■神戸フィルムオフィスの取り組み

神戸フィルムオフィスの設立は、阪  
神・淡路大震災5年後の2000年9月。  
海外の文化事情に詳しい田中まこさん  
が、復興を模索する神戸市に相談され、  
フィルムコミッションを提案され、ま  
した。欧米では各都市にあり、ロケの候  
補地を無料で案内する。作品でまちが紹  
介されると観光客が訪れるので、行政の  
すべき仕事と考えられていましたが、日  
本にはありませんでした。

まこさんは「震災発生時に壊れたまち  
の姿が世界中に伝えられたが、復興途上  
は報じられない。ならば作品を通じて世  
界に知ってもらおう」と考えました。西  
宮出身、母の被災、被災地への思いなど  
から、東京を引き上げて初代代表になっ  
たのです。

2000年は初めて日本にフィルム  
コミッションが誕生し、横浜、大阪、神  
戸、北九州の4都市で立ち上がりました。  
現在300以上あり、映像制作者は、ま

ずそこに協力を求めるのが普通になっ  
ています。私は2015年に、まこさん  
からフィルムオフィス代表を引き継ぎ  
ましたが、映像制作者と、神戸のあらゆ  
る組織や人をつなぐのが仕事。ロケ地を  
探し、撮影環境を整える。作品が完成し  
たら一緒にPRする。華やかな仕事と思  
われがちですが、交渉も大変で、なか  
か作業は泥臭いです。

撮影では平均70人ほどのスタッフが  
1か月間滞在し、直接的な経済効果は大  
きな作品だと億単位になります。作品化  
で地域の魅力が発信でき、観光地以外が  
ロケ地になれば新たな観光資源の発掘  
にもなります。作品の舞台をファンが訪  
れると間接的経済効果もあります。

個人サポーター制度もあり、エキスト  
ラや大道具づくりなどを通じて映画制  
作の魅力に触れてもらいます。現在、約  
1万4千人。6%が神戸市民、2%が神  
戸市外の兵庫県民です。よい作品が地元  
で撮影されることで、自分のまちに誇り  
を持つてもらえる。企業には撮影場所の  
登録などの協力をお願いします。

知名度も上がり、「神戸で撮りたい」と  
いう依頼は増えています。「キングダム

「ロ」は西宮の白水峡で合戦シーンを撮りました。ネット配信の「今際の国のアリス」は、真夜中に旧居留地の街灯や信号を消して撮りました。時代劇で「るろうに剣心」、ラブストーリーでは「フォルトウナの瞳」のロケを誘致できました。「スパイの妻」は、神戸出身の黒沢清監督が初めてふるさとで撮り、ベネチア映画祭で金獅子賞（監督賞）に輝きました。映画、ドラマ、テレビ番組から、CM、配信ものと、今やいろんな作品に神戸が登場しています。

### ■アーティスト・イン・レジデンス神戸

個人的活動で1年半前に立ち上げた「アーティスト・イン・レジデンス神戸（AIRKIIアーク）」についてもお話ししておきます。一定期間、アーティストが滞在し、作品制作やリサーチを行う場所のことで、2年前に関わったロケで、俳優・ダンサーで神戸出身の森山未来さんが「神戸に作りたい」と言い出しました。

海外のAIR滞任経験がある森山さんは「アーティストが、暮らすようにまを体験するのは大切なこと」と力説しました。場所探しを手伝い、北野町4丁

目に築60年のレトロな外国人マンションが見つかって、仲間6人で立ち上げました。

森山さんはアークの必要性について「漠然と新作のイメージがあっても、なかなか具体的ににならない。日常から離れた見知らぬ場所に滞在することで、体験が創作のインスピレーションに繋がる」と言います。神戸に数年滞在して映画「ハッピーアワー」を制作した濱口竜介監督も「その地に生活することで生まれる交流や、長期滞在者としての目線が作品の血肉になった」と振り返っています。

アークでは、これまで49組を受け入れました。神戸が大好きになり、移り住んだ作家もいます。今後は神戸の文化施設や、既存のアート活動との親和性を深め、よい影響を与え合えればと思っています。地域の人々もアーティストと出会い、作品の中で神戸の魅力を再発見してほしい。そうして、まちが豊かになればと願っています。

長い時間をかけ、たくさんのアーティストを受け入れながら、彼らがまいてくれた種から生まれる「文化の芽」を大切に育てていきたいです。

### 神戸文化ホール開館50周年記念事業

#### 『ジャズ大名』観賞レポート

マザーポートクラブの支援を得て、1月7、8日に神戸文化ホールで「ジャズ大名」（開館50周年記念）が上演されました。観賞後の印象を同クラブ幹事の西海恵都子さん（神戸新聞社取締役）に寄稿して頂きました。

「帰り道、寒さが和らぐような熱量をお届けします」。主演俳優は1月の舞台の前に、そう語っていた。一体、どんな舞台なのだろう。ワクワクしながら足を運んだのは筒井康隆の小説を舞台化した「ジャズ大名」。幕末の混乱期、アメリカの奴隷制度から解放さ

れ、故郷のアフリカを目指した3人組が日本に流れ着く。好奇心旺盛な藩主は彼らが奏でる音楽に夢中になり、城中を巻き込むセッションが繰り広げられていく。鎖国していた当時の日本で漂流者はどのように映ったか。言葉も通じずコミュニケーションもままならないが、異国の音楽とリズムに接すると自然に体がスイングし、しかめっ面だった藩の役人らの表情も豊かになっていく。圧巻はラスト20分ほどの、役者や演奏者が狂ったように踊り続ける場面。芝居の一部のだが、トランス

状態に陥っているようにも見え、すさまじいエネルギーを発する。寒さが和らぐ熱量。まさにそれだった。

#### 編集後記

大規模改修を終えた神戸ポートタワーが今春、新装オープンします。先日、米大手旅行サイトで2024年アジアの注目都市として神戸が4位に挙がり、ミナト神戸のランドマーク復活も紹介されていました。思えば、神戸の代名詞であるジャズも洋菓子も、ミナトから始まりました。復活したポートタワーは、どんな新しい歴史を見守ることになるのか。神戸のマザーポートから、さまざまな元気の復活が発信される年になってほしいと思います。（M）

#### 編集・発行

神戸文化マザーポートクラブ事務局  
（公財）神戸市民文化振興財団内

〒651-0017

神戸市中央区楠町4-2-2

Tel. 078-361-7176

Fax. 078-351-3121

<https://www.kobe-bunka.jp/kbmpc/>